

1. 第4次総合計画の進捗状況

1)ひとが輝き、未来につながるまち 田尻	
主な取組成果	
1. 人権尊重	○人権課題に対する新たな法整備を受けて周知・啓発事業を推進
2. 国際化の推進	○保・幼・小・中において関西国際センターとの交流等を実施
3. 次世代の育成	○子育てガイドブック作成・配布 ○保育所・幼稚園などの保育料等を無償化 ○町立幼稚園・子育て支援センターにおいて一時預かり事業開始 ○ファミリーサポートセンター事業を開始 ○こども医療費助成事業の対象者を18歳まで拡大
4. 学校教育	○田尻町版小・中一貫教育の推進 ○ALTの増員、英検受験への助成など国際理解教育、外国語学習の推進 ○保・幼・小・中におけるICT教育環境の構築
5. 生涯学習	○三代交流促進講座など時代に即した生涯学習講座の開催
6. 歴史・文化	○田尻歴史館（愛らんどハウス）の保全・活用に向け耐震化等の改修事業

2)健やかで、安心して暮らせるまち 田尻	
主な取組成果	
1. 健康づくり	○各種健診の充実（日曜健診、特定健診・がん検診の同日実施、胃内視鏡検査、妊婦健診等） ○医療体制の充実（広域母子医療センター運営、広域初期急病センター運営）
2. 地域・社会の支えあい	○還暦のつどい等コミュニティイベントの開催 ○広報たじりへの各種団体情報掲載 ○ふれ愛センターの休日開館、フリースペースで集える場所を提供 ○介護支援サポーターの養成講座の実施
3. 高齢社会・障害福祉	○介護予防事業の推進（体操・筋トレなど各種教室の開催、介護ポイント） ○田尻町独自の取組みとして、多職種連携会議「たじりっちねっと」を医師や介護職など他職種の連携、情報交換のネットワークとして実施 ○障害福祉の推進（基幹相談支援センター運営、町施設等バリアフリー化）
4. 安全・安心	○消防広域化による消防・救急体制強化 ○自主防災会の育成・支援 ○防犯カメラ・防犯灯の増設
5. 住宅・住環境	○三代同居近居新生活スタート助成事業 ○公営住宅の適正な維持管理、計画的に長寿命化

3)資源が活かされ、魅力あるまち 田尻	
主な取組成果	
1.自然・環境保全	○農業委員の協力のもと、小学校・幼稚園の田植え・稲刈り体験を実施
2. 都市整備	○吉見ノ里駅周辺整備（踏切拡幅） ○（仮称）りんくうポート北広場の整備計画 ○コミュニティバスの運行（2019年5月予定） ○国土調査（地籍調査）の推進（事業終了）
3. 生活環境	○上水道事業の広域化（大阪広域水道企業団への統合） ○下水道ポンプ場の耐震化・長寿命化 ○有料化及び廃プラの分別回収によるごみの減量化 ○吉見墓地を拡充（平成27年度）
4. 情報・通信	○基幹系システム、庁内ネットワークシステム、インターネット端末におけるセキュリティ強化
5. 産業振興	○観光漁業推進への支援 ○泉州黄たまねぎの普及促進 ○りんくうポート地区における企業誘致の推進 ○観光促進策として関空島内連絡バスにラッピング広告を実施 ○DMO（KIX 泉州ツーリズムビューロー）への参画

4)みんなでまちづくりを進めるために	
主な取組成果	
1. 参画と協働のまちづくり	○公園や児童遊園、駐輪場などで住民団体が花植えボランティア ○りんくうポート北広場整備、田尻町ウォーキングコース整備計画の住民ワークショップによる計画づくり
2. 行財政運営	○定員管理計画策定、公共施設等総合管理計画の策定
3. 広域連携	○広域福祉課設置（H25.4.1～泉佐野市に事務所） ○広域まちづくり課設置（H29.10.1～泉南市に事務所） ○一部事務組合の再編（ごみ、し尿）

2. 住民の意識

（1）住民意識調査

＜田尻町の暮らしやすさ＞ 「どちらかというと暮らしよいまちだと思う」「暮らしよいまちだと思う」がそれぞれ4割以上であり、これを合わせると 87%が田尻町を暮らしやすいと回答 している。	＜田尻町の良いところ（複数回答）＞ 「コンパクトなまちであること」が回答者の6割 で最も多く、次いで「海のみえる景観や自然がゆたかなこと」「関西国際空港があること」がそれぞれ4割以上、「教育環境がよく「子どもを育てやすい」まちであること」「漁港があり日曜朝市などの賑わいがあること」が3割以上で多かった。
＜今後の定住意向＞ 「町内に住みつづけたい」が65%で多数 。年代別では、 16～29歳代は「町内に住みつづけたいが町外に移ることになるかもしれない」（38.0%）が最も多く 、次いで「町内に住みつづけたい」（26.6%）「いずれ町外に移りたい」（20.3%）となっている。住居の種類別では、持ち家が「町内に住みつづけたい」（71.4%）の割合が最も高いが、 府営・町営住宅（62.3%）、民間賃貸（58.6%）でも定住意向は高い 。	＜田尻町の将来像（複数回答）＞ 田尻町が将来どのような町になればよいと思うかでは、 「災害に強く治安のよい「安全・安心のまち」」が7割 近くで最も多く、「子どもからお年寄りまで健康で安心してくらせる「健康と福祉のまち」「公園や緑にめぐまれ快適で住みやすい「住宅のまち」」がそれぞれ5割以上の回答者からあげられた。

（2）第5次田尻町総合計画策定に係る住民ワークショップ

第5次田尻町総合計画を策定するにあたり、住民参画による計画づくりを行うために、様々な世代、立場の人が参加する住民ワークショップを開催した。

	テーマ	意見・アイデア
第1回 平成31年 1月26日	「ひとが輝き、未来につながるまち田尻」 （子育て、教育、生涯学習、歴史文化、国際化、人権）	・世代間の交流のため、いろいろな意見を言える多様なコミュニケーションの場、グループの共有できる場をつくる。 ・町で唯一の小中学校をPRし、課題を住民に広く共有できるようにする。 ・次世代の育成は町全体で。 ・歴史文化のPRが必要。若い世代、新しく転入してきた人にも歴史に興味を持ってもらい、理解を深めていったら、担い手ができていくのでは。
第2回 平成31年2月9日	「健やかで、安心して暮らせるまち田尻」 （健康づくり、地域福祉、地域コミュニティ、安全安心）	・働いている人、若い世代や親子で参加できるもの、夜の講座や参加しやすい時間帯があるといい。 ・いろいろな活動があることを、広報やHP、伝言板・掲示板、SNSでもっとPRする。 ・防災イベントは、遊び感覚で参加しやすいやり方で継続して実施する。 ・いざという時の避難場所、具体的にどうしたらいいかを、町から住民にもっと情報発信をした方がいい。 ・安全に子どもたちや高齢者が通れるように、一方通行や時間規制などのできる所から考えては。 ・空き家の活用を、町の支援でみんなで対応できるようにしていく。
第3回 平成31年 2月23日	「資源が活かされ、魅力あるまち田尻」 （都市整備、産業振興、生活環境、環境保全）	・まちなかの道路拡幅は難しいので、できるだけ中心を通らないように迂回できる道をつくってはどうか。 ・道路の電柱を地中化。 ・マーブルビーチの南側に、若者たちが集まる場所が何かあればいい。 ・試験的に期間限定で場所を設け、黄玉ねぎを販売・PRしてはどうか。 ・町の体験や食べ物など観光ツアーで案内できるようにしてはどうか。 ・漁港の通りにキッチンカーを並べて販売しては。 ・町のシンボルになるような大きな木を育てよう。

3. 田尻町の課題

1) 人口減少と少子高齢化への対応

田尻町では、関西国際空港開港を契機に人口増加が続いているが、今後は住宅開発による人口流入が鈍化することから、人口が減少に転じることが予測される。一方で、年ごとに老年人口比率は高くなっており、年少人口比率は横ばいではあるが、高齢化が進行している。

今後は人口減少と少子高齢化に対応して、人口の維持と均衡のとれた人口構成の維持が求められる。子ども、高齢者、若い人や働き盛りの人も含め、すべてのライフステージの住民が住みやすいまちづくりに取り組む必要がある。

<まちづくりの課題>

- 田尻町で子どもを育てたいと思えるまちづくり
- 誰もが健康に暮らせるまちづくり
- 若い人や働き盛りの人が魅力を感じて住み続けることができるまちづくり
- 人口規模に対応した適正な都市機能の維持・整備

2) 安全・安心への意識の高まりへの対応

田尻町は海に面していることから、地震に伴う津波や高潮などの災害に十分に備えておく必要がある。災害に強い安全・安心のまちづくりには「自助・共助・公助」の考え方によるまちづくりが求められる。

高齢者や単身世帯が増加していることなどにより、災害や犯罪の脅威に対する抵抗力が低下していることに加え、地域での人のつながりの希薄化がみられ、あらためて安全・安心の確保に対する社会的な取り組みが求められる。

<まちづくりの課題>

- 総合的な防災体制の充実
- 自助・共助による防災力の向上
- 協働による防犯・交通安全対策の取り組み

3) 国際化の進展への対応

田尻町に立地する関西国際空港の航空旅客数は、2011（平成 23）年以降増加しており、特に国際線利用は 2011（平成 23）年の 2 倍に伸びている。今年春に町内最大規模となるホテルが新設され、町内のホテルは 5 つとなった。町内に宿泊する外国人旅行者への対応が期待される。

関西国際センターが立地しており、研修生との交流が続けられてきた。今後は町民との交流の広がりが求められる。

<まちづくりの課題>

- 関西国際空港の立地を活かした産業の振興（農業・漁業・観光）
- 国際化に対応した特色ある教育
- 関西国際センターの立地を活かした国際交流

4) 地域の自主性を高める取り組み

田尻町では地区会、婦人会、青年団、こども会などの組織が地域活動を担っているが、各団体の人材の確保が課題となっている。今後は N P O 等のテーマ型の活動団体との連携など組織の枠を超えた連携を検討し、地域の活力を維持・増大していく必要がある。一人ひとりが自らの課題を自主的に解決し、他人や地域・社会のことを考え、自分のできる範囲で活動する町民を増やしていくことが求められる。

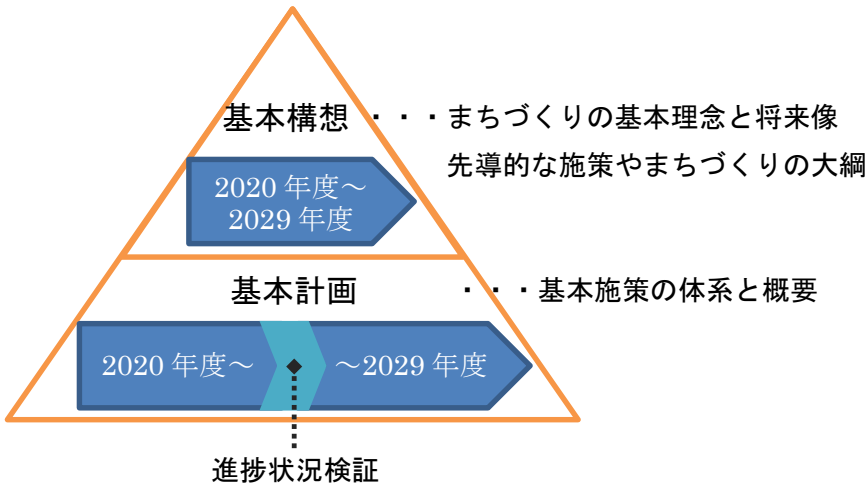
<まちづくりの課題>

- 地域コミュニティの充実
- 住民と行政との協働によるまちづくり
- 地域資源を活用し、選択と集中による効果的な行政運営

4. 第 5 次田尻町総合計画の策定について

(1) 総合計画の構成と目標年次

総合計画は、田尻町の将来像を定め、その実現に向けた取り組みと具体的な施策の方向性を示すものであり、まちづくりの基本的な指針として、各種行政計画の最上位に位置づけられる計画である。



第 5 次田尻町総合計画は、2020 年度（令和 2 年度）を基準年次、2029 年度（令和 11 年度）を目標年次とし、計画期間を 10 年間とする。

このうち基本計画については、2024 年度（令和 6 年度）末における進捗状況を検証し、必要に応じて見直しを行う。

(2) 新総合計画の策定方針についての検討事項

○人口フレームの設定

平成 28（2016）年 3 月策定の田尻町人口ビジョンの目標値に対して、目標年の 2 年前に当たる現在の状況は 8,369 人（平成 30 年 9 月 30 日）、目標の最大値である「府営住宅跡地での開発」＋「移動改善（転出・転入）」＋「出生率改善」の数値に近いレベルで推移している。現行の第 4 次総合計画において、2020（平成 32）年目標年次の人口は 9,773 人（当時警察学校想定 792 名含む）であり、この目標値の達成は難しい。

○まちづくりの基本理念と将来像

<考えられる方向性>

- すべてのライフステージの住民が住みやすいまちづくり（人口維持と均衡のとれた人口構成の維持）
- 安全・安心のまちづくり
- 世界と交流するまちづくり（国際化の進展への対応）
- みんなでつくるまちづくり（地域の自主性を高める協働によるまちづくり）